

令和5年度 中央区立京橋築地小学校 自己評価報告書

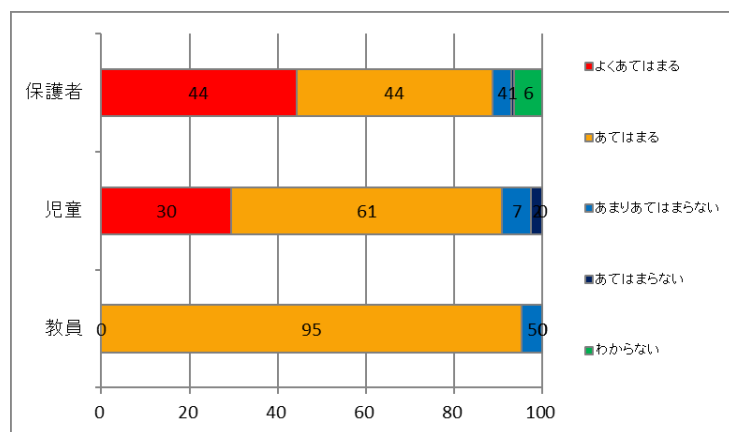
学校名：中央区立京橋築地小学校 所在地：中央区築地2-13-1
 校長名：佐藤 興二
 児童数：351名 学級数：12学級 教員数：26名 職員数：7名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

※アンケート回答数 保護者：208 児童(4～6年)：106 教員：17

重点目標1 主体的に考え、課題解決できる力を育成する。

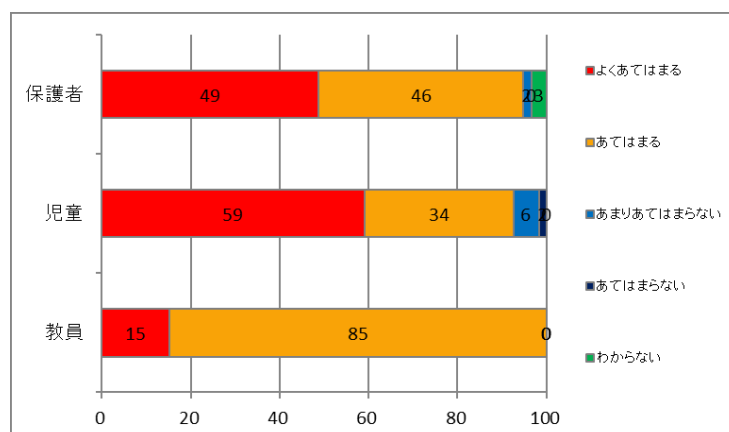
評価項目：個に応じた習熟度別少人数指導の工夫・改善
 問題解決型授業の推進



今年度の校内研究では、「主体的・対話的で深い学びをつくる授業の工夫」を研究主題とし、児童が論理的に物事を考える力を育成する授業実践を行った。少人数での対話や思考ツール等を活用する事が効果的で、児童が意欲的に取り組むことで、相手を考えて伝え方を学び、自分の考えを広げたり、深めたりする経験を積み重ねていくことができた。重点目標1に関するアンケートにおいても、保護者アンケートで88%、児童アンケートで91%が肯定的な評価であった。放課後補習教室や算数の少人数指導等の個の課題に応じた取り組み等々を評価していただいたと考える。また教員アンケートでは肯定的評価が95%に対し、「よくあてはまる」は0%であったので、課題や改善点を2年目の研究に生かしていきたい。

重点目標2 自分も他人も大切にする「人間関係形成力」を育成する。

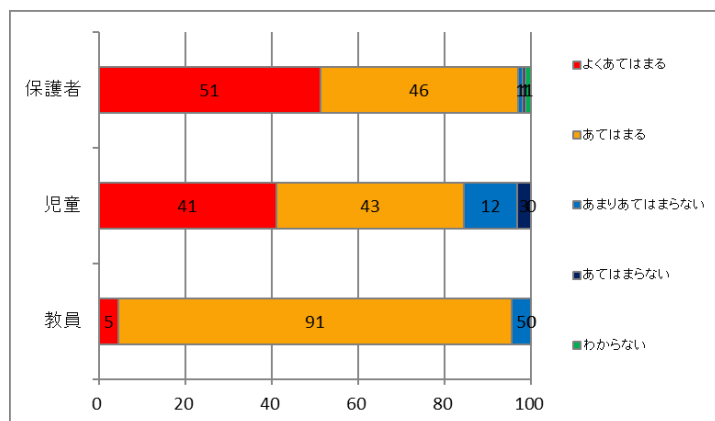
評価項目：特別の教科「道徳」の授業の充実
 縦割り班活動等の異学年での交流活動の充実



重点目標2の取り組みについての肯定的な評価は、保護者アンケートが95%、児童アンケートと教員がいずれも93%と高い評価だった。学校公開や道徳授業地区公開講座にて道徳授業を人数の制限なく公開し、月に1回の縦割り班遊びでは上学年は下学年を思いやり、下学年は上学年を見て学ぶ機会となった。また保育園と幼稚園との交流では、読み聞かせや学校案内、交流給食等、様々な活動に取り組むことができた。引き続き自分も他人も大切にしよう活動を活発させ、互いの違いやよさ、個性を認め、尊重し合い、協同してよりよいものを求めようとする力を付けるべく人権尊重教育、豊かな心の育成を進めていく。

重点目標３ 自ら体力づくりや健康維持について考え、行動できる実践力を育成する。

評価項目：マイスクールスポーツの計画的・継続的な取り組みの推進
体育の授業や体育的行事への取り組み姿勢の意識改革



マイスクールスポーツである「なわとび」では、月に１回のなわとびdayで全学年が中休みに技の練習に取り組み、「水泳」では館山臨海学校の時間泳で自分の目標達成に向けて児童の一生懸命に泳ぐ姿が見られた。また、「持久走」も１１月と２月に持久走重点旬間を設け、２月の持久走記録会に向けて元気に走る姿が見られた。年間を通して、瞬発力や調整力、持久力の向上と健康維持についての取り組みを児童が自らの目標を設定し取り組んでいる。重点目標３のアンケートでは、肯定的な評価として保護者

アンケートが９７％、児童アンケートが８６％と高い評価であった。しかし、今年度のスポーツテストを分析すると、全学年で「ソフトボール投げ」が目標値よりも下回っていた。これはボールを使った遊びや、運動経験が不足してきていることが考えられる。今後は体育の指導内容を見直し、計画的に経験を積ませていきたい。

２ 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケートにおいては「わかりやすい授業」や「家庭学習の習慣化」への質問、児童アンケートでは「授業内容の理解」に関する質問では、肯定的評価が９０％を超えた。昨年度に引き続き朝学習でポイントを絞って学習したことや放課後補習の取り組みを継続したこと、さらに「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりを校内研究として推進し、少人数での対話やタブレットの有効活用、協働的な学習場面の設定等によるものと考えられる。

また、「学校行事が楽しい」「充実した宿泊行事だった」と感じた児童は、どちらも９０％を超え、特に宿泊行事は９５．１％という結果となった。これは、行事のボリュームだけではなく児童一人一人の活躍の場や伸びを実感できる活動の在り方を工夫したことによるものと考えられる。

一方で「児童の悩みやトラブル」に関する質問では、困ったことがあったときに、だれにも相談しない子が約２割ほどおり、全職員で各学級の子どもの様子について情報共有し、共通理解のもとで課題解決にあたるとともにＳＯＳの出し方について周知方法を深める場を設定していきたい。

自由記述の回答では、多くの励ましのお言葉のほか、様々な改善意見をいただいた。すぐに実行すべきことから次年度の計画まで、よりよい学校づくりのために生かしていく。

３ 今後の改善方策

アンケート結果や本年度の反省を踏まえ、今後の改善のための方策として、以下のことに取り組んでまいります。今年度も多くの保護者の皆様にご協力をいただきましたが、今後も回答率１００％を目指して工夫・改善を図っていく。

○主体的に考え、問題解決できる力を育成する

相手意識・目的意識をしっかりとち、小集団での表現活動の中で自らの学習を振り返る中で、主体的な学びの姿勢を身に付け、タブレットを含めたＩＣＴ機器の有効活用や授業形態の工夫をするなど協働的によりよく解決していく学習場面を設定していく。また、「言語活動」「小集団活動」「体験活動」を通して全ての教育活動における課題解決型の学習に取り組み、一人一人の主体的・対話的で深い学びを保障していく。

○自分も他人も大切にする「人間関係形成力」を育成する

地域や異年齢の人とのふれあう活動を重視し、子ども同士の協働、教員や地域の人との対話・交流の中で「気付き」「思い」「考え」の共有を図ることで、仲間や家族、地域の方、さらには自分を大切に、人のために考え、かかわり方の新たな価値を見いだす機会を大切にしていく。

○自ら体力づくりや健康維持について考え、行動できる実践力を育成する

心と体を一体としてとらえ、体力を向上させていくことにより、精神的な面も充実していくことに配慮していく。そのためにマイスクールスポーツを中心に、年間を通して運動に取り組む意欲や習慣を維持し、体力や運動能力の向上に取り組んでいく。また、運動の楽しさに触れ、自己肯定感を高めることができる体育科の授業改善を行っていく。

○主体的に考え、問題解決できる力を育成する

自ら主体的に課題を見付け、タブレットを含めたICT機器を有効活用することで、協働的によりよく解決していく学習場面を設定していく。活用の場面やタイミング、活用する上での創意工夫が教師の授業技術に大きく関わっていると考えられるため、校内研究や授業実践を行うことで各教科の中に定着させ、子どもたちが主体的な学習への取組を通して着実に学力を身に付けられるようにしていく。